

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 自動車リサイクル士更新講習の受講の様子…P1 □常任役員・ブロック長の抱負 … P2・P3・P4
 □いその株式会社 稲沢工場を見学 … P5 □2020年度自動車リサイクル促進センターの理解活動について
 /12月新車販売・使用済自動車発生台数… P6 □2021年の鉄スクラップ業界の見通し… P7
 □鉄スクラップ最新情報… P8 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P9

vol. **143**

自動車リサイクル士更新講習の受講の様子

01

現在、WEB上で受講する“サテライト方式”で開催している「自動車リサイクル士認定制度更新講習会」を受講していただいた方よりご意見・ご感想をいただきました。

【実際に自動車リサイクル士更新講習を受講してみた】

株式会社永田プロダクツ 菅原 義久

1月21日に開催されました自動車リサイクル士制度認定更新講習会を受講しました。今回はオンライン講習会ということで、昨今の状況では適切な開催方法ではないかと思えます。

講習会の参加申し込みをすると、運営事務局よりメールが届き手続き完了のお知らせや受講するにあたっての受信機器の設定方法などが送られてきます。私はPCを利用し受講しましたがタブレットなどでも可能なようです。メールを見ながら設定すればこういった機器に疎い私でも簡単にでき、前日には受信テストがあるので当日に慌てることなく受講できました。



講習会は事前に送られてくるテキストに沿って進められ、重要なポイントについては講師の方が詳しく説明してくれます。会場で受講するのと場所が異なるだけのイメージで良いかと思えます。数年前に受講して忘れていた内容も再確認することで、ルールに則って更に効率良く、且つ安全に作業出来るようになるかもしれません。講習後、修了試験もありオンライン上での選択式試験でした。

最後にオンライン講習会を受講しての感想ですが、会場までの移動が無い事、普段と同じ環境で受講できるメリットは大きいと思います。最近はこのような開催方法が一般的にもなり、機器を利用することのハードルは高くないと思いました。また業務をする上でも講習会の内容は大切なので有効活用していきます。

本講習は次年度も“サテライト方式”で実施する予定です。自動車リサイクル士の資格をお持ちで、更新の対象となる皆様は次年度の受講を是非ご検討ください。

巻頭言

「脱ハンコ」の流れが進んでいます。軽自動車の廃車手続きでも認印が原則不要となりました。確認したところ、申請書類受付時に、所有権付きの車の場合は「電話で所有者に確認をとる」が、所有者が定休日や何らかの事情で電話に出られない場合は申請書類を受理するとのことでした。

そうすると平日の定休日を狙って、ローンが残っている車を第三者に売却することが可能になりますが、このような問題への対応策はまだ検討されていないようです。

本来「脱ハンコ」の目的は行政手続きの効率化であり、「ハンコを使わないこと」が目的ではないはず。目的を取り違えてかえって混乱を招くことが無いよう願っています。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

前月号では酒井代表より本年のご挨拶をさせていただきました。今回は、当機構の常任役員及び理事・ブロック長の皆様より、本年のご挨拶や抱負、コロナ禍において感じられている思い等々をいただきました。

【常任役員】



副代表理事
永田 則男

明けましておめでとうございます。昨年来、コロナ災禍により機構の活動もままならない状態が続いております。しかしながら酒井代表理事を筆頭に常任役員会、ブロック会議、各部会委員会は粛々と活動を行っています。我々の業界に関わる課題は山積しており、ひとつひとつを確実に改革、整備して行く必要があります。すべては未来の自動車リサイクル業界のためです。そのためには主張すべき所は主張し、手を携えるところはしっかりと連携しながら進めて行きたいと考えます。

自動車リサイクル業に携わる皆さんが、これからも安心して会社経営ができる、そのような業界、環境づくりに少しでもお役に立てるよう今年一年、奮励努力して行く所存です。



副代表理事
石井 浩道

新型コロナウイルスの感染拡大により、甚大な被害を受けている全てみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。また、感染症に対応されている全ての従事者の方々に心より敬意を表しつつ、一日も早いコロナ禍の収束をお祈りいたします。

さて、昨夏以来機構の副代表という重責を頂きまして、以後足りない自分ではありますが、業界発展の一助となるべく、手探りではありますが前向きに活動を進めております。しかしながら、コロナ禍による移動や人への接触の制限から、ほとんどの活動はリモート中心です。一日も早く元の生活に戻れることを望むばかりです。早くみなさまと膝を付け合わせ、出来れば酌を交わしながら業界の未来や夢などを大いに語り合い、また同時に現状の課題やお困りごとを共有し、一つひとつそれらの課題を整理しながら、出来る事から改善に向けて実践して参りたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



副代表理事
木内 雅之

皆様には日頃より多大なご協力を頂き、誠に有難うございます。

本年は緊急事態宣言からのスタートとなりました。昨年がコロナに「応戦」する一年であったのに対し、今年は「希望」溢れる、新たな「挑戦」の年としてまいりたいと思います。様々な制約の中で、「できないこと」より「できること」を見つけて挑戦する。どんなに予測困難な未来であっても、「今どうするか」が未来を決定づけます。先人の言葉に「大悪をこれば大善きたる」と。常にチャンスはピンチの中にある。それを実現するのが「希望」と「挑戦」の心だと思えます。そして、その「希望」と「挑戦」の心を呼び起こすもの、それが「つながり」の力であると思えます。皆様とともに「つながる」・「つなげる」・「つながり」の力をより一層強くし、励まし合い、知恵と力を合わせ、「希望」と「挑戦」の一年、困難の時代をともに勝ち開く一年にしたいと思えます。



副代表理事
埜村 岳史

コロナは野生の動物の中に静かにいたもので、人間が開発などで環境汚染とか乱獲で森を壊してそういう所から出てきたわけです。地球温暖化も人間がこれまで傲慢になって地球環境を破壊してきた事が原因です。

今、私達はもう少し謙虚になって他人に対する思いやりとか、自然に対する思いやりとか、あるいは地球全体を考えるように生活を改める、そういう事を考えるととても良い機会ではないかと思えます。コロナ禍で皆様もたいへん御苦労されている事と思いますが、ピンチはチャンスと言う言葉があります。こういう苦難の中にあって大きなプラスの芽が必ずあるし、それが次の発展に繋がる新たな気付きや発見もきっと生まれると思えます。会員の皆様と共に助け合い、譲り合い、励まし合って頑張りたいと思えます。

【常任役員】



地域ブロック長会議長
東北ブロック長
平地 健

不安を感じる中、本部と各ブロック、支部を通じた情報の共有、また、会員さんの意見交換や集約などリサイクル機構の中で、血液の役割と自負しております。

しかしながら、今までの会議形態での開催が困難のため、開催方法を検討しているなどで、ブロック会議などを開催できないブロックもあり、本部と会員さんの情報の共有意見交換ができてない状況です。課題を一つひとつ解決しながら、全ブロックで、情報の共有と意見交換をできる環境に取り組みます。

東日本大震災から、10年を迎える今年。あの時期に多くの皆様が仙台に来ていただいたのは忘れることができません。すべての会員さんが、活動（場）を通して将来の希望や足元の不安を話せる環境が大変重要と考え取り組んでいきます。

【理事・ブロック長】



理事
北海道ブロック長
山口 一幸

2020年は年初より、COVID-19の襲撃を受け、5月頃にはどうなるか全くわからない状況にあった。しかし、我々の業界は物流事業の一躍を担っている事や資源の高騰で、他業種に比べると影響は少なかったと考えている。

年末に2050年カーボンニュートラルや2030年に向けた国の対応が発表された。2030年に向けて、我々の業界も変化が起きてきます。CO2削減は我々リサイクルに携わる者のテーマと考えています。この問題は我々にとってチャンスと考え、リサイクルによるCO2削減の取り組みを加速させたい2021年はそんな年と考えている。



理事
関東ブロック長
小林 信夫

あけましておめでとうございます。皆様はどのようなお正月をすごされたのでしょうか。私は新型コロナウイルスの感染拡大によって、例年とは違った正月でした。

さて、コロナ発生から一年が過ぎ、共存共生の「ウィズコロナ」その先の「ゼロコロナ」等々叫ばれていますが、去年の経験を今年にどう生かすかが大切だと考えています。年始のタオルがマスクに代わったように、商売もいつそう臨機応変に対応していく必要があるかもしれません。過去は取り戻せませんが、未来に希望を持てるよう歩んでいきましょう。

本年もよろしくお願ひいたします。



理事
中部・北陸ブロック長
光山 広志

明けましておめでとうございます。コロナ禍で世界が混沌としています。我々自動車リサイクル業界にとってはもっと重要な課題が挙がっています。

2030年代半ばからZEV車（電気自動車）に、ICE車（ガソリン車）販売は禁止にする事に最終調整に入ったと示され、ZEV車に対応する協議をやらなければ今後、衰退してくると危機を感じます。その為には関連する各業界団体が、分け隔てなく連携し取り組むべきだと思います。

最後に、一つでも空白県を埋めて絆の強いブロックにしていきたいと思いますので皆様方からの御指導、御協力、御鞭撻を頂戴したいと思いますので宜しくお願いします。

【理事・ブロック長】



理事
近畿ブロック長
赤松 健一

新年明けましておめでとうございます。

昨年からのコロナ禍の中、人と人との繋がりが途絶え、リモートでの会話をするのが、今の私達の唯一の情報を得られる手段になっている今日この頃です。

近畿ブロック会議も昨年11月にリモートでの会議を行いました。今年は会員の皆様と今できる環境の中での情報交換が出来る場を設けてコミュニケーションが出来ればと思うのと同時に努力します。



理事
中国・四国ブロック長
中村 昌徳

新年あけましておめでとうございます。

昨年来、新型コロナウイルスの拡大が続き、未だ収束への道筋も見えない中、より一層の警戒と制約の日々が続きます。

我々の業界は昨年からの原料高騰でどうにか凌いでいる状況だと思いますが、難しい局面を迎えているのは間違いありません。今までと違う状況の中で、新しい課題も次々と生じてくると予想されますが、求められるのは変化への対応力、向上力、突破力だと思います。

なかなかお互いのコミュニケーションも取りづらい状況ですが、組合員力を合わせて前向きな姿勢でこの難局を乗り越えていきましょう。



理事
九州ブロック長
森田 光弘

明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの影響により、様々な状況が大きく渦巻くなか、機構の活動が思うように出来ない部分がありました。その中でも、ウェブ会議等のシステムを導入・活用したことで、機構の活動を始め、皆様とコミュニケーションを取ることが出来ると分かった一年でもありました。

本年は、ウェブ会議を中心とした活動を行い、九州ブロックが一体となって自動車リサイクルでの多くの問題とコロナ対策を考えていき、会員の方が増えるよう努力して参ります。



理事
沖縄ブロック長
松田 和生

「後継者の育成！」本年はこれを目標として1年励んで参ります。

自動車業界は今大きな変革期を迎えておりますが、我々の仕事は“人”があって成り立っていくことは変わりません。次の世代を担う後継者の育成をすることは、業界にとって非常に大切なことです。

また、日本各地のそれぞれに特色があるように、沖縄も地域によって自動車のリサイクルを取り巻く状況や実態が異なります。今般のコロナ禍におきまして、周囲とのコミュニケーションが希薄となってきておりますが、皆様の声に耳を傾け続けることはもちろんのこと、パソコン等を用いたりリモート会議のシステムをどんどん活用していき、皆様で1歩ずつ前に進んで行きましょう。

製品が製造されてから廃却されるまでの全体 CO2 排出量と吸収量をプラスマイナスゼロにする“カーボンニュートラル”を、2050 年までに達成するという政策目標が打ち出されるなど、今自動車リサイクル業が大きく貢献している CO2 の排出量削減が大きな話題となっております。

今回、使用済自動車から発生するプラスチックパーツが新しい自動車のパーツに生まれ変わる CarToCar 事業を行っている「いその株式会社稲沢工場」へ訪問し、プラスチックのリサイクル現場を見学させていただきました。(2020 年 12 月 24 日訪問)

主に自動車に使われているのは、PP (ポリプロピレン) というプラスチックの種類で、バンパーや内装パーツ等に用いられています。工場では、それらのパーツを粉碎(爪ぐらいの大きさまで砕いたもの)したものを、数々の工程を経て再生プラスチックの原料となる「ペレット」を生産していました。そのペレットが、自動車のセンターダクトや、エンジンルームの部品等のパーツに生まれ変わることで、資源の有効活用にも大きく貢献しています。



【今回見学】

稲沢工場での出荷までの道のりを大きく分類すると

① 混合 (粉碎されたプラスチックを混ぜる) → ② 添加剤配合・混合 → ③ 造粒 → ④ 検査

の 4 工程を経た再生ペレットが出荷されていきます。

④検査では、大小様々な機器が並んだ検査室内で、衝撃、曲げ強さ、弾性、引っ張り強度、伸び強度、硬度、熱変形温度、耐候性、耐久性や耐熱性等を検査し、他にも様々な検査が行われていました。

また、いその株式会社様では、プラスチックパーツをより効率良く回収できる一助となるよう、パーツの外し方マニュアルを独自に作成し、取引先の解体業者へ配布しているとのことでした。

見学を終え、手間をかけて解体・回収された自動車のプラスチックパーツが、新たな自動車のパーツとして再生されることで、CO2 の削減、資源の有効活用に大きく貢献することが改めて理解できました。

現場の方々の丁寧で熱意のこもったご説明をいただきながら、長年蓄積されたデータから適切な添加物を配合し、多数の項目を厳密に検査している現場を目の当たりにしたことで、これからもより高品質なものと技術が生み出されていくのだと感じました。

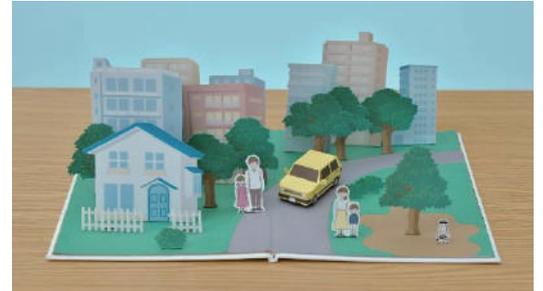


写真：ルーダーマシン (③の造粒において、細長く伸ばし、金太郎飴のように裁断してペレットになります。)

自動車リサイクル新 PR 動画の配信開始

「自動車リサイクルのことをもっとみんなに知って欲しい。」そのような思いを込めて、公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）が新たに作成した「自動車リサイクル新PR動画」の配信がウェブサイト上で開始されました。

- タイトル：『自動車リサイクル 地球もクルマも回ってる』篇
- コンセプト：私たちの生活に欠かせないクルマ。使用を終えてもクルマは資源の塊です。私たちユーザーが支払ったリサイクル料金によって、そのほとんどが適切にリサイクルされています。このPR動画を視聴することを通じて、クルマのリサイクルの流れやリサイクル料金の使途を知り、現在のこと、未来のこと、循環型社会のことなどを家族や身近な方と話題にするきっかけになればとの願いが込められています。

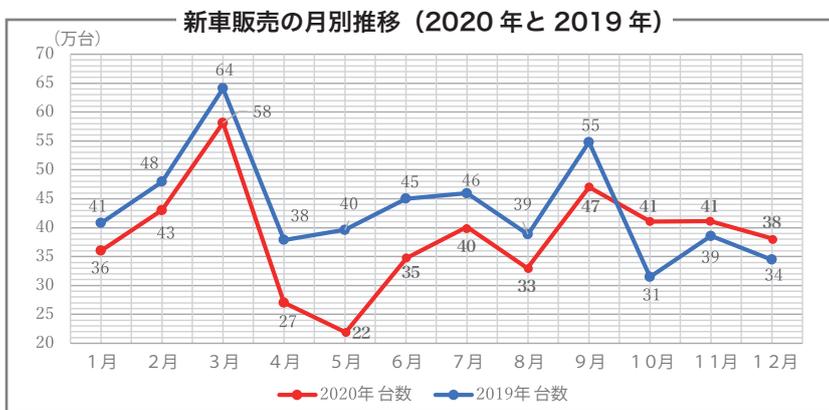


実際に視聴すると、使用済自動車がどのような物に生まれ変わり、資源がどのように循環されているのかを、ペーパークラフト風で分かりやすくなっており、誰でも最後まで楽しみながら理解できる内容となっております。皆様も是非ご覧ください。

- こちらのウェブサイトからご覧ください。 ▶ <https://www.jarc.or.jp/paper-craft/>
- JARCのYouTubeチャンネルからも動画が配信されております。
▶ <https://www.youtube.com/channel/UCdm2U7j3vN8KRi8Bj3NH3-w>

12月新車販売・使用済自動車発生台数

2020年12月度 新車販売台数 379,896台 前年同月比 110.2%

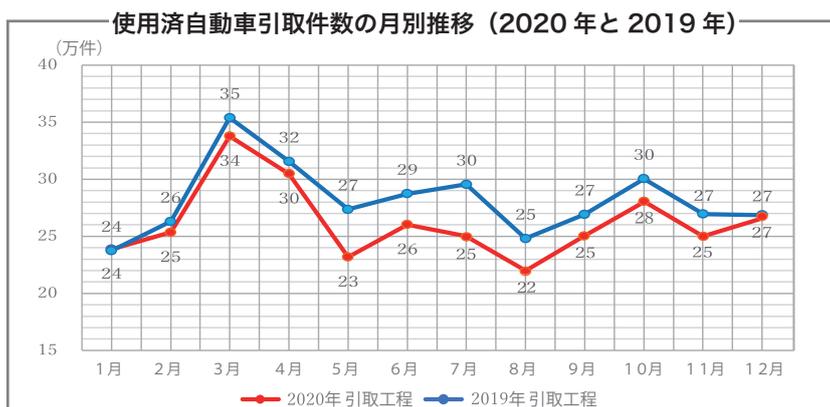


過去の/new車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2020年(12月まで)	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3
2016年	4,970,258	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協力連合会

2020年12月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況



引取件数
267,735件（前年同月比 99.6%）
フロン回収工程
239,694件（前年同月比 99.8%）
解体工程
276,338件（前年同月比 99.2%）

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



2021年度の粗鋼生産は内外需の持ち直しを背景に、前年度比では増加する見通し

令和2年(2020年)年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界に大きな打撃を与えた。鉄鋼業、金属リサイクル業をはじめ世界がコロナ禍に振り回される年となった。そうした中で年末にかけては鉄スクラップ市況が内外で急伸。中国など新興国の粗鋼増産により需要が増加した。その一方で、供給を担う先進国はコロナ禍による経済失速からの回復が遅れ、供給が減少し、鉄スクラップの需給バランスが崩れた。このため年末に向けて鉄スクラップが世界的に急伸する展開となり、国内H2相場は4万円を上回り2008年以来の高値圏に到達した。また、鉄鉱石や原料炭価格も急伸した。

2020年を通じ、新型コロナウイルスの感染拡大は世界経済を失速させ、製造業の稼働休止などが相次ぎ、特に4～6月の加工スクラップの発生が大幅に落ち込むこととなった。また、鋼材需要の減少を受けて、世界的に粗鋼生産量が急減した。供給、需要両面で鉄スクラップに大きな影響を与えた。

こうした日本の内需減を受け、鉄スクラップ輸出量が大幅に増加。粗鋼増産を続ける東南アジアや南アジアの需要が増加したため、日本からの輸出量が増加した。また、ベトナム向けが初めて日本産鉄スクラップの輸出仕向け先トップとなった。内需減と輸出増により、関東では10月、船送り数量が関東電炉の粗鋼生産量を初めて上回ることとなった。

日本鉄鋼連盟は「2021年度の鉄鋼需要見通し」を発表した。これによると、2021年度の鉄鋼内需を、「前年度の大減の反動により、前年度比では増加が見込まれるものの、総じて回復ペースは緩やかと見られる。建設業では、土木部門で『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』に伴う鋼材需要が期待される。建築部門では、物流施設関連の倉庫需要は堅調も、鋼材需要は前年度比横ばいとなる見通し。製造業では、自動車部門が外需を中心に回復すると見られる。機械部門は、企業の業績回復に伴い設備投資が緩やかに回復すると見られ、鋼材需要も持ち直しが期待される」と予測している。

また鉄鋼外需については、「前年度比では回復する見通し。IMFは2021年の世界経済が回復すると予測していることに加え、世界鉄鋼協会の短期需要見通しにおいても、先行き不透明感が強いなかでも中国を含む主要国の需要増加により、世界鉄鋼需要は前年比増加が見込まれていることなどから、日本の鉄鋼輸出は2020年度を上回ると見られる」という予測だ。

こうした状況を受け、2021年度の粗鋼生産は「内外需の持ち直しを背景に、前年度比では増加する見通し」との見解だ。

これらを勘案すると、原料となる鉄スクラップ市況は、感染症拡大状況、米中貿易摩擦、中国経済の動向など懸念事項は依然として存在するものの、2021年にかけては大勢としては前年に比べて高値圏の推移となることが考えられる。H2の炉前価格は30,000～45,000円台で上下を繰り返す動きとなりそうだ。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本自動車リサイクル機構は一切の責任を負いません。)

1月第4週(20日)の鉄スクラップ動向



1月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	41,000 ~ 42,500	値下がり
	南関東	41,000 ~ 42,500	値下がり
名古屋		41,500 ~ 43,000	様子見
関西	大阪	42,000 ~ 43,500	値下がり
	姫路	41,000 ~ 41,500	値下がり

関西テnder、希望価格達せず12年ぶり流札

関西鉄源連合会(会長=黒川友二・扶和メタル会長)は1月19日、第98回共同輸出入札を行ったが、希望価格に達せず、流札となった。同連合会の入札が不調に終わったのは2008年10月14日の第9回以来。

13日の関東テnderが国内買値を上回ったのに対して、翌14日に東京製鉄宇都宮工場は反落へ転じる動きにあった。これがアジアミルの購買意欲の低下へ繋がったほか、欧米市場を牽引してきたトルコ向け成約価格も直近高値から20ドル強の反落へと転じるなど、海外市場は下落局面を迎えていた。それ以外にも船舶確保が容易でなく、共同輸出を行う泉北助松埠頭がバース混みによって、計画通りの配船が出来にくい環境でもあったため、「今回の応札価格は先々の値下げや配船リスク織り込まれたのでは」(商社)と推測する。

一方、地区内では19日から電炉筋の半数が値下げを行いつつも、足並みは揃わず、H2が42,000~43,500円と実勢圏の動きにとどまっている。国際市場は弱気ムードに染まりつつも、旧正月明け以降の期待感も根強いため、「足元、海外安の影響は避けにくい、調整的な可能性も残る以上、現時点で地区相場を下回る価格帯で受け入れる必要もない」(ヤード業者筋)とし、流札に前向きな意見も多いようだ。

【関東地区】 浜値先行安で電炉値下げ散発

関東市場では浜値が続落し、電炉筋の値下げ改定が散発する動きが続いており、ジリ安の相場展開となっている。電炉筋の間では、鉄スクラップ入荷が好調なため品種別に荷止対応も見られる状況だ。1月20日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は41,000~42,000円中心、高値42,500円見当。湾岸商社・シッパー筋は在庫水準が高く、断続的に浜値を値下げする動き。H2浜値は39,000~41,000円中心。高値が切り下がっている。

【東海地区】 輸出軟調で先行き不透明感台頭も

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見推移。関東メーカーや関西の一部では入荷好転から既に調整下げが広がっているが、当地区では各メーカーの生産水準も比較的高く引き続き模様眺めが続いている。ただ、他の地区からの流入玉も目立ち始めたことに加え、業者筋は在庫リスクを避けるため、今月も初めから出荷優先の動きを続けており、電炉入荷は使用量見合いを超えている。H2炉前実勢価格は41,500~43,000円中心。

【関西地区】 複数電炉下げ動き半年ぶりの下落局面

大阪地区の鉄スクラップ市況は軟地合い。海外安や需要一服を受け、19日から8社中4社が一律500円の買値引き下げを行っており、本格的な値下がり局面入りとの警戒観測が広がっている。複数電炉による同時での買値引き下げは7月上旬以来半年ぶり。ただ、高値筋は下げ改定を見送る動きにある。1月20日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が42,000~42,500円中心、一部高値43,500円。姫路地区が41,000~41,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月20日午前時点のもの)

行事予定

— 2月の主な行事予定 —

■2月9日(火)

・J-FAR(事例集) 定例会

■2月10日(水)

・第11回 広報部会

■2月16日(火)

・自動車リサイクル士制度
第7回更新講習会

■2月22日(月)

・第53回
自動車リサイクル合同会議

■2月24日(水)

・沖縄ブロック会議

■2月25日(木)

・使用済自動車由来ガラスの
再生利用促進に向けた勉強会

■2月26日(金)

・東北ブロック会議

※急遽、日程の
変更・延期の場合がございます。

February

お知らせ

貴金属類の共同出荷事業のご案内

機構会員を限定に今年度実施しております「コンピューター基板/エアバッグカプラー/センサー類」3品目を対象とした「貴金属類の共同出荷事業」につきまして、第2回目の集荷日は2021年1月15日から2月15日となっております。よろしくお願いたします。

また、当機構では2021年度も継続して本事業を実施する予定です。詳細が決まりましたら、改めて皆様へご案内いたします。

編集後記

依然としてコロナ災禍は収束の兆しが見えていないことから、世界が窮屈極まりない自粛制限の中で喘いでおります。新年楽しみにしていた賀詞交換といった恒例行事も中止、なんとも寂しさ漂う一年の始まりとなりました。どこまで続くぬかるみぞといった感が拭えませんが、ここは辛抱強く人類の叡智に期待しましょう。

機構の活動、特に会議等は随分と様変わりしました。会議のほとんどはネットを使った会議となり、いまや当たり前のように行われています。この度の自り士更新講習もインターネットを使った講習会で行われました。その模様は今号に掲載しておりますので是非一読下さい。

実はかく言う私も今回、ネット更新講習を受講しました。大きな声では言えませんが、ネットを使った講習など大丈夫なのだろうかといういささか疑問がありました。しかしそれは杞憂であり、会場で味わう臨場感こそありませんが十分に要件は満たしております。これであれば移動時間、費用も削減できます。恐れ入りました。この文明の利器は組織活動の在り方にも革命をもたらすこと必至でしょう。

(広報部会 部会長 永田 則男)